

審議会等の会議結果報告

1 会議名	第5回津地区地域審議会
2 開催日時	平成24年8月23日(木) 午後2時30分から午後4時40分まで
3 開催場所	津市役所4階 庁議室
4 出席した者の氏名	(津地区地域審議会委員) 市川律子 内田秀哉 大森裕志 柏木はるみ 杉本清治 竹之内映子 富永毅 橋本陽子 東尚子 南野利久 (事務局) 津市長 前葉泰幸 政策財務部長 盆野明弘 政策財務部次長 松本尚士 地域政策担当参事 南浦康人 政策担当参事兼政策課長 山下佳寿 地域政策課長 北川良治 地域政策課主査 水谷麻美 政策課主査 深堀巧
5 内容	1 津地域が目指す将来像について 2 津地域における地域課題について 3 その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	2人
8 担当	津市政策財務部地域政策課地域政策担当 電話番号 059-229-3277 E-mail 229-3277@city.tsu.lg.jp

・議事の内容 下記のとおり

北川地域政策課長	<p>お待たせしました。それでは、定刻となりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日は、市長が出席させていただいておりますので、市長からご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>皆さん、こんにちは。津地区の地域審議会の皆様方には、地域における課題につきまして、大変真摯なご議論をご熱心にご覧いただいておりますことをまずもって御礼申し上げます。ありがとうございます。</p>

4月13日に委嘱をさせていただきました、その後この総合計画の審議会が始まっております。当審議会からは南野副会長に総合計画審議会委員を兼任をいただいているということで、南野さんを通じて既に色んなご意見をお伝えいただいていると思いますが、今日は、今後、地域審議会会長から総計審の会長宛てにこの地域の課題というか、合併後このようなことは実現してきたけれども、まだまだこういうこともやらなければいけないというようなお話をいずれしていただくのだと思いますので、その途中の段階で、一度各地域審議会で、この段階でちょっと市長に言うておかなければいけないことがあるんだとか、あるいはちょっと市長の意見を、考えを聞いた上で最終的に審議したいというようなことがあれば、少し私も今の考え方を申し述べさせていただき、こういう時間にもさせていただきたいと思ひまして、呼びかけたような次第です。

お手元にこの青い1枚紙をお配りしました。これは先ほど申しましたように、4月13日が委嘱でございましたのでその後、私自身が総合計画審議会に期待をする論点というか、視点としてお願いを申しあげたこと7点でございます。これを、2、3分時間をいただいて、少し確認の意味でご説明をさせていただきます。

まず、1番は基本構想を尊重して作りますということで、総合計画は平成20年にできておまして、10年間の基本構想がございます。この基本構想の部分は、議会の議決を経ておりますので、この10年間は基本的には変えないという考え方で進めております。したがって、今平成24年、来年から平成25年、後期の5年間に入るわけでございますが、この10年間の中での5年間ということになりますので、基本構想を尊重したということは行政の継続性あるいは合併後10年でやろうとしていたことをしっかりと実現していく、そういうスタンスでという後期基本計画を作りたいということでございます。

その2番目に、したがって合併後10年でやるべきとしていたことの確認と検証ということがございます。

ちょっと飛ばしまして、5番目、合併特例債5年延長とありますが、合併後10年と言いますけれども、これ平成18年から10年間あります。平成27年。今の総合計画は、平成20年からスタートしていますので、平成29年まで。28、29というのは、元々は合併特例債の対象期間からは外れていた時間なのですが、東日本大震災等ありまして少し予定通り合併後のまちづくりが進んでいないというところが、被災地を中心に多かったものですから、この6月に国会の方で合併特例債5年間延長するという法案が成立をいたしました。したがって、こ

の法案に基づきますと平成32年までが私どもの合併特例債の有効期間ということになります。従来、ちょっと間に合わないかなということが考えられていたことも、この5年間のモラトリアム期間ができましたので若干できることも増えてくるのかなと思っております。ただ、基本的にやろうとしていたことに付け加えるというよりも、やろうとしていたことが時間切れでできなくなることを拾い上げていくようなスタンスでないと、合併特例債、いたずらに膨らますとまた長期的な財政運営の中では難しくなりますので、まずは改めて確認をするべき時期でございませう。

それから3番、4番になりますが、そうは言いましても様々な地域課題、新たに出てきております。今日も午前中、美里に行っていて美里の地域審議会であらば、平成18年、20年、合併の時なり総合計画作る時よりも全然状況が変わったことってこの地域で何ですかという話をしている、シカとサルの数だそうですが、やはりそうだと思います。もう獣害がものすごくあの地域大変になっているとか、そういうことも含めて色々状況が変わってきて、何といっても津地区ではおそらく東日本大震災が起こって、津波対策というのが新たに出てきたと。これまでもあったことはあったのですが、地域防災計画ベースで言えらば、3ページくらいしか書いていなかったのを津波対策編というのを地域防災計画に作り込むまで、市民の方の関心が高まっている。それへの対応が必要になっているということかと存じております。そういうことも含めまして、地域課題の対応とか社会経済情勢の変化への対応ということも必要でございませう。

6番は、国・県事業との連携ということで、これは、市の計画ではあまり意識して書いていない部分かもしれませんが、中勢バイパス一つとってみてもあるいは津松阪港の海岸の堤防整備一つとってみても、国なりの事業あるいは県なりの事業が非常にまちづくりに大きな影響を与えますので、この辺りはしっかりと意識をして書きこんでいくべきところは書きこんでいくと。

それから、7番の対話と連携によるまちづくり。これは、市民の皆さんのご意見をしっかりと伺いしながら、まちづくりを進めていくという私の考え方がございませうので、こういうことを当然のことながら織り込んだ総合計画にさせていただきたいということとございませう。

したがいまして、各地域で今から目指す将来像とか、あるいは地域課題ということをご審議いただいておりますが、今後ともこういうことをなるべくはっきりと明快に出していただければと。あまりご遠慮、きれいな文章にしようというこ

<p>北川地域政策課長</p>	<p>とをあまり意識し過ぎるとかえって焦点がぼけたりしますので、ぜひ、多少ごつごつした各地域の思いをダイレクトに書いていただくようなものを出していただいた方が、総合計画審議会の方でも計画づくりがしやすいのではないかな。事務局は多少困るかもしれませんが、そのくらいの方がかえっていいかなと思って、フランクに、率直にそれを話しさせていただいたところでございます。</p> <p>一つよろしく願いいたします。ありがとうございます。</p> <p>それではただ今から、平成24年度第5回津地区地域審議会を開催させていただきます。本日の出席委員は、委員15人中、11人ご出席の予定ですがお一人遅れてみえますので、ただいま10人出席をしていただいておりますので、会議は成立をいたしておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>また、本日、東福寺会長は身内にご不幸がございまして、ご欠席されております。代わって、南野副会長に進行の方をよろしく願いいたしたいと思っております。</p> <p>それでは、よろしく願いします。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>今、紹介がありましたように、東福寺会長がご欠席のため代わって進行させていただきます。</p> <p>それでは、早速ではございますが会議を進めさせていただきます。</p> <p>本日の会議録に署名をしていただく方を指名させていただきます。富永委員さん、橋本委員さん、両名をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事項書の1「津地域が目指す将来像について」、2が「津地域における地域課題について」となっておりますが、まず、「津地域が目指す将来像について」から始めさせていただきます。</p> <p>本日は、市長にもご出席いただいておりますので、津地域の将来像について活発な意見を皆さま方と意見交換させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>事前に委員の皆様方から色々ご意見をいただいております。配布をさせていただいております。資料のとおり取りまとめをさせていただきました。</p> <p>順番に、提出された意見・提案について発表をお願いしたいと思います。発表が終わりましたら、市長も交えて意見交換をさせていただきたいと思っております。なお、時間の関係で、なかなか皆さんに多くの時間をというわけにはいかないも</p>

	<p>のですから、お一人1分程度の発表でお願いしたいと思います。円滑な議事進行にご理解とご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、五十音順でお願いしたいと思います。まず、市川委員、よろしいでしょうか。</p>
市川委員	座ってでよろしいでしょうか。
南野副会長	はい。
市川委員	<p>失礼します。</p> <p>私は事前に資料としてここに書かせていただいた通りなのですが、私は日頃、民生委員主任児童委員という立場から、子育てというか子どもたちを育てているお母さん方の味方として、色々意見を言いたいところでもあります。やはり、ここに書かせていただいた通り、やはり津は良いところだな、本当に津で子育てがしたいと子どもを産んで安心して育てられる故郷であって欲しいというロマンみたいなものを書いてありますが、一番総合計画で色んなことに私も勉強させていただいて、こんな分厚いのも所々見させてもらいながら、こんな計画があって、こんな津市のために色んな方が関わって、まあ素晴らしいこと全部達成したら素晴らしいこの市だなと思うのですが、それを担う職員の方々に只今正規雇用が少なくなってきた場所の部署ごとに正規雇用、色んな方のパートもあると思うのですが、果たしてこの計画がどのように遂行されていくのかな、人員が減らされている中でどうなのかなと思って。やはり正規の方に負担が行かれるんじゃないかな、色んな巷でも心の病気や色んな負担があるのではないかなということとか、それから、それを遂行していく中で何でもかんでも津の職員に、公園にたくさん草が生えているから市のどこどこお願いしますじゃなくて、やはり地域ですることとか計画の中にも民と官と色々立場上あるじゃないかというところがありまして、色んな、ここに書かせてもらったようなことです。</p> <p>市長さんを前に、拙くて本当に申し訳ないのですがフランクにとということだったのでこれを読ませていただきました。以上です。</p>
市長	ありがとうございます。

南野副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>順番に意見を最初にお願いしてよろしいでしょうか。</p> <p>では、内田さんお願いいたします。</p>
内田委員	<p>僕の方は、ここに書いてあるのですが、タイトルとしては、水技術を活かしたスマートシティを構築していくのが、一つの基本構想として挙げさせていただきました。津市というのはどうしても県庁所在地ということで、県側になんか依存しているというか、すごいそんな感じがするのです。津市自体の独自性というのは、やはり何か必要なのではないか。美術館にしろ図書館にしろ、図書館は津市にもあるのですが、ほとんどが県の施設であって津市の施設はこれというのがない気がしています。それで、新たに津市独自の施設をやはり作ってそれ自体が経済的な効果だとか、文化的あるいは雇用の問題とかそういうものを派生するようなものを作っていく必要があると考えました。一つは今ある競艇場というは、果たしてこのまま継続していくのがいいのかどうかという問題があると思います。全国的にも公営ギャンブルが少なく縮小していく傾向があるので、津市もこれを考えられてはどうかなど。それで、その跡地を利用して、僕が書きましたウォータービジネスの学術及び産業的なセンターみたいなものを作ったらどうか。実際に水ビジネスというのは今後世界的に非常に重要になってくると思います。他の国では水が足りない、日本は割と山紫水明、水がいっぱいあるところなのですが、他の国においては水が足りないところ、特に低開発国では、低開発国が発達していくと農業用水、工業用水が当然足りなくなって、もちろん飲み水なんかも非常に足りない時に日本自体が水のビジネスで利益を得ていくという方向があるのではないかと思いますので、こういうものを考えられたらとどうか。津市には三重大学とか、そういう学術的な期間もありますので、そういうビジネスを考える上では非常に有利なところだと思います。そういうことで、ここで基本構想は10年間は基本的にされるということで市長さんも先程おっしゃったのですが、公営ギャンブルを廃止していくためには10年くらいやはり期間が必要だと思うんです。色んな意味で、色んな利害関係の方がいらっしゃるので、それを廃止して行って現在ある津市の特別会計になっていると思うのですが、ギャンブルは、それ自体をなくすことで、かなり一般会計自体が豊かになってくるのではないかという気がします。そういう面では、それを廃止して行って、じゃあ次に何を作るのか言わないとやはりただ廃止する丈では反対意見も多いと思</p>

	<p>ますので、そういう面で、僕は別にウォータービジネスじゃなくてもいいのですが、このウォータービジネスというのが今後かなり将来的に高い可能性があると思いますので、こういう意見を書かせていただきました。以上です。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>続いて、大森さん。</p>
<p>大森委員</p>	<p>はい。私も、住みたくなるまちづくりというテーマで書かせていただいているのですが、先程、市川委員さんの方からもお話があったように、津と言えば住みやすい街、子どもを産んで育てるには良い街と私も学生時代に県外にいた時に、県外の友達でも津っていいとこだね、子どもを産んで育てているにはいいとこだねと言われるような街であったと記憶しております。そういったことを実際に言われました。ですが、それはそれとして、実際そういう街ではありますが、公共機関、行政機関といった部分でも他の市、三重県内の市の中で一番優遇されていると言えば優遇されている、文化施設においても市の文化施設も県の文化施設もみんなある街であるにもかかわらず、それが十分に活かされていないのではないかなというふうに感じます。ビジネス都市なのか、文化都市なのかと言われた時に一瞬何なんだろうなと思ってしまうのが今の津市なのではないのかなと思います。どっちつかずと言いますか。そういった中で、三重大学もあり、そういった文化施設もある中で、私は子どもを育てる世代の方々が、ここの津市に定住や他の市、県からでも来ていただける町、あそこに行きたいなという街になってもらいたいなという思いでちょっと書かせてもらったのですが、まず、提案として研究機関や大学、僕は極端な例ですが海外の大学を誘致するですとかそういったことをすることによって、雇用も生まれ若い人たちが集い、そしてビジネスチャンスがあればそこへ企業も進出してくると。この街の中心街、大門やあちらの方も衰退する一方でその近隣に住まわれているご老人の方々が、この前の話でもありましたが、買い物難民になるような方々も出てくるのではないかという中で、そういった商業施設が中心街にあることによって歩いて買い物に行けるそういった街に戻っていただけたらなという思いで、住みたくなる街にさせていただきたいなという思いで意見を書かせていただきました。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>はい。小野寺さんはちょっと欠席ですか。</p>

北川地域政策 課長	はい。
南野副会長	じゃあ、柏木さんお願いいたします。
柏木委員	<p>はい。私もペーパーで出させていただいていますので、上からご説明させていただきます。津市の概要というふうに書きましたが、皆さんご存知かと思いますがそれを踏まえて、旧津市は特にそうですが市街地が海岸沿いにある臨海都市だと私は思っています。そしてその歴史経緯としまして、全国30都市の中で初めて市制をひいたという歴史の古い123年も歴史のある、合併してからも6年経ったという経緯も踏まえて今後どうするかということですが、津市がこれまでしている宣言を見てみますと7つほどありました。駐車場の前に立っていると思いますが、その中でも私が注目したのは男女共同参画都市宣言とスポーツ・文化都市宣言というところを強化していくことによって他の5つのところも引っ張っていけるのではないかなと考えました。これまで私たちにとって、あなたにとって津市はどんな街という時に、好きです津の海、津のまちが、旧津市の時はそうだったと思いますが、これから広くなりましたので、好きです津の海、津の山河、言い方は別として、津のまちがとなりましたが、やはり牽引していくのは旧津市なのではないかなと思っております。旧津市の強みとしてはいくつか挙げさせていただきました。何かよくわからないという都市という言い方もありますが、これから評価することによって、方向性が明確に出てくる都市なのではないかと思っております。スポーツ施設も完備されておりますし、これからもしていく予定もあるとお聞きしております。また、公共都市、市民活動、文化活動が活発な都市というところも津市の特徴です。市民が結構頑張っている街なのかなと思っております。その2つの宣言を活かしたまちづくりを是非していただきたいというふうに考えます。これからは、お金や物の時代は終わって成長の時代は終わりましたので、これからは成熟化していく時代で一人一人が自分らしく生きていきたいと、物からお金ではなく事柄に変わってきています。一人一人ニーズが違いますので、まず健康であること。みんなが高齢化もしていますので、長寿で生きていてよかったなど、この街で生まれてきて死んでいく、ほとんどがそういう人ですからよかったなと思えるような津市、行政としてはそこを支援することですね。それから、男女共同参画の先にあるのはダイバーシティですので多様な人が参画</p>

	<p>できる都市、能力が発揮できる都市、職員だけが汗をかいて少ない人数で、まず無理ですので、連携、協働というところをしながら市民力を、市民力と言いますが新しい公共を作っていくのがこれからの時代になるかなと感じております。でも、施策としては頓挫しています住民自治基本条例を何とか策定していただきたい。それから、男性と女性とのあまりにも大きなジェンダーバランスの格差を無くしていくことが福祉的支援を少なくするためにも必要なことですし、ぜひこの辺もしっかり取り組んでいただきたい。若者が定着していかなければ活性化はありませんので、若者が定着できる都市にしていきたいと思っております。今日は市長がおいでですので、市長さんはシティマネージャーだと私は理解しております。この市をどうマネジメントしていくリーダーシップがやはりすごく大事なところですが、皆さんの意見を聞くことも大事ですが、あれもしてくれ、これもしてくれよりは大きなビックピクチャー、大局をしっかりとつかんだリーダーシップを発揮していただきたいと思っております。住民は株主であると同時に社員でもあります。私たちにも責任がありますので、市民力を信じて最大限に活用していただいて心身ともに健康な市民、多様な市民が新しい津市を担っていくんだというデザインで描いていただけたらというふうに提案させていただきます。</p>
市長	はい、ありがとうございます。
南野副会長	はい。杉本さんよろしいですか。
杉本委員	<p>はい、杉本です。よろしくお願いします。</p> <p>まちづくり戦略プログラムということで、総合計画の中に入っておりますが、私、やはり海岸の線と海を綺麗にさせていただくということを常に感じております。河芸から香良洲までが一応海岸線になると思いますが、それは相当には津市も頑張って砂浜の整備されているところもあるのですが、北に行くほどまだ十分でないというところもありますので、そこら辺に目を付けていただきたいというのが、やはり海岸線において色々と雇用を生むことができます。海を綺麗にして魚をどんどんと水揚げすると、そこに携わる従業員が必要なのです。というのは、昔白塚の海岸から香良洲の海岸までには浅瀬に魚、きれいな魚、例えばカレイ、コチ、シャコ、それこそ本当に我々6年生時代から10年間は手で獲れるような近くに魚がいたと。状況が変わって今海が汚くなって、一匹の魚も手で取れない状況が</p>

	<p>今河芸から大体津の中央くらいまでが獲れません。香良洲の方に行くと雲出川というある程度の水が流れて海がきれいになっている関係から魚はかなりわくのですが、北側はそういう大きな川がないですね。雲出川から出るとここにあるのは塔世橋、江戸橋、これが塔世橋それから岩田川、この川において流れる水は海に流れるとまた汚くなるんです。海に来たら汚くなる、汚れるんです。ということでここらについてはぜひとも早く河川改修または下水の問題とも絡んできますので早急に処理をしていただきたいということによって津市全体に海岸ベリももっともっと良くなるというふうに考えておりますので、今後よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>では、竹之内さんお願ひします。</p>
<p>竹之内委員</p>	<p>はい。私の立場的には津市スポーツレクリエーション協会というところに所属しておりますので、その立場からここに書かせてもらったようなことです。10年たった時に一身田とかの街並みがあるままというよりも、もっと、ここにも書きましたがほっとするとか、人が和めるような場所、ものすごくにぎわっているとかそういうことはあまり考えないと思うのですが、そういうようなまちづくり、そういう方針を目指してまちづくりしていければいいのかなと思ひます。そのためにも我々のような団体とか人の力で、先程柏木委員の方からもあったように協働していくということが、やはりベースにあるのかなと思ひますので、まちづくりは人づくりということで、色んな団体と絡んでその人たちを自由に動いてもらえるような方針でまちづくりができればいいのかなと思ひます。結局は、防災とかそれがベースにあつてのまちづくりだと思ひますが、一身田というのは特に津市が誇れるものだと思ひしておりますので、みんな津のどこに住んでいても一身田というのが誇れるものとしてもう少し胸を張れるような街であればいいなと思ひて書かせていただきました。以上です。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>はい。富永さん、お願ひします。</p>
<p>富永委員</p>	<p>はい、富永でございます。私は実際に目で見て体で感じたことを書かせていただきました。津地区の目指す将来像ということで、津市の農業の将来像がどうも見えてこないということで、ちょっと農家の人に話をすると色々JAに対しての</p>

	<p>不信感もあるようでございます。もちろん私自身が困るのではなくて、残念なことは農地が数年後には宅地になっていることが現実的に目にするとこれで本当に農業は良いのかなという危機感を感じるということで、農業に対する知識はありませんがこのままの農業でいいのだろうかということを感じております。2番目に津に住んで良かったと思えるまちづくりをして欲しいということで、防災対策、災害に強い都市構造の構築ということで集中豪雨や大型台風、三連動、東海大地震ということも想定した中で、やはり防災は大変なことだと考えております。特に23号線、いつもこの23号線は0メートル地帯にあるということで、渋滞はするわ、大雨降れば浸水するわで大変なことだと思います。それから高齢者対策として生き甲斐と福祉、医療ということで考えていきたいと思っております。やはり老人が健康で暮らして長生きしていただくということには、やはり老人健診の強化ということで色んなことを政策に折り込んでいただきたいと。それから、緊急救命対策として、緊急時の医療体制は津の場合はどうかという、ちょっと気になるようなところもあるようでございます。それから健康づくりとスポーツ振興ということで、33年ですか、国体誘致というのはもう決まっているようございますので、この国体の選手をどうするか。今までよそから借り入れて、選手を借りてきて、それから三重県として国体をやって優勝したとか、そうではなくて今の中学生という年代以下の方を健全なスポーツを育成してはどうかと思っております。それから、色んな小さい方から老人まで楽しめるスポーツということと、それから津には多目的グラウンド、スポーツ公園というのがちょっと見当たりませんので大きな立派なものじゃなくて、グラウンドのみで十分できるのではないかなと思っております。以上です。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。橋本さん、お願いします。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>すみません。私は津に来て38、40年にもなるのですが、初めてこの津に来た時に、何か若くして隠居した気分になった、友達にそういうことを言っていた自分を思い出しております。本当に若い時には物足りない街に感じました。歳と共に今、この歳になってみると津に帰ってくると非常にほっとした気分になるのは、歳のせいもありますが、やはり大変住み心地のいい街であることには間違いのないなと思っております。ただ、何か昔とそう変わっていないんじゃないかというところで物足りなさがありまして、例えば、江戸橋、私は江戸橋ですが、江</p>

戸橋にちょっとテナントビルを建てる、38年前に立てるときに、ここは大学の通学路だから道は広くなる計画があつてこの設計は通りませんよと言つて設計を変えさせられたことがあつて、事業を縮小させられたんですよね。でも、38年経つても道幅は何も変わってなくて、古くなつたのは建物だけで、あれは一体何だっただろうとよく思つていまして、そういう意味でちょっと計画だけ先に立つて発展のところは非常に遅いなということはそういうところから感じております。やはり、色々経済状況が厳しい中で財政が厳しいのも非常によく分かりますが、そういう中で優先して考えるとするならば、やはり何としてでも人口減少を食い止めていかなければいけないのではないかとこのことを一番に感じました。先程来から色々な方がおっしゃっておりますが、住み心地がいいというだけではなくて子どもを育てる意味で保育所、学童、安心して住める地域、若い夫婦が子どもを育てるのにととも環境のいい場所だというイメージを是非県内外に、もちろん環境を整えなければいけません。そういうことを思つた。アピールしてぜひ若い方たちにこちらに目を向けていただけるように、またこういう若い方たちの意見を聞いてどういうところは足りないのかということをもっと汲み取つて考えていただければいいんじゃないかなと思つています。それから、先程申し上げましたけれども色々文化施設はあるのですが、楽しめる施設がない、遊べる施設がない。公園と言つても広場にブランコ、滑り台があれば公園か、それだけじゃなくとももう少しアイデアがあつて良いんじゃないかと思つています。つい最近、アウトレットがこの頃色んなところでできて、その新しいアウトレットができたためにお客さんが奪われたところがじゃあどうしようかと考えた時に若い方の意見を聞いて子どもと共にもっとショッピングを楽しめる場所にして欲しいという意見がすごく多かつたということで、本来のアウトレットとは少し外れてでもテナントを子ども向けのものを入れたりとか、広場に有料であっても遊べる色んな遊具を取り付けたところ大変お客さんがまた戻つてきたというお話を聞いた時にもやはり若い夫婦は子どもと共に色んなことが楽しめるようなもうちょっと楽しい施設を増やすことが、今既存のものをもっと少し楽しい施設にできないかと。津の偕楽公園でも、私昔子どもを遊ばせた時には確か動物が、動物園があつたと思うのですが、動物園と言つてはおかしいかもわかりませんが、いくつか檻があつて確か動物がいました。偕楽公園、観音さんのところですかね。そういうところが全部なくなつてしまつて、ブランコと滑り台だけではちょっと寂しいな、もう少しうまく利用出来ないものかなと思つたりもしました。以上です。

南野委員	東さん、お願いします。
東委員	<p>緊張してしまいますけれども。</p> <p>私も自分自身が後期高齢グループに入っていますし、民生委員をしていたようなことで年寄りの人とか、その方がちょっと気になって、いつも申し上げるんですが、これからの高齢化社会というのは本当に車なしでも安心して暮らせる交通網の発達した市でないと困るなというふうに思います。さっきも出ていましたが、買い物難民というのも現実にはちょっと不便な私の団地なんかではありますし、歳をとってもすごく活力もあるし気力もあるし意欲もあるんだけど足の問題で出にくい。タクシー代が月に2万円もいるってというような人もいるわけなんです。外で活動しようと思えば。だから、そういうふうに足の問題、十分に交通網が発達して動けるようなことができてきたらもっと大勢の人が街に出て来れる。病院通いとかそういうことだけでなく、色んなものの購買力にもかかわるし、活力にもかかわるし、それから学習意欲にもかかわっていけると思います。これも私もずっと読ませていただいている、津のまちづくり目標の安全で安心して暮らせるまちづくりとか活力あるまちづくりに欠かせない根本的な問題じゃないかなと思います。住民の意識調査でも公共交通機関に対する重要度は高いけれども満足度はまだ少し低いというところが出てたように思います。ただ、現実にはバスなんかの利用者が減って業者として採算が取れないということで路線とか運行回数、ほとんど通らない路線も津市の中にあるわけですが、これはもう事業者頼みということではなくて、やはり行政と住民が知恵を出し合って、少しお金も出し合って、そして今住んでいる人の足の確保ということを大事にしたいというふうに思います。そういう時代がもう来ているのではないかなというふうに思います。確かに将来に描く夢というのは、私も本当にたくさんあるし大事にしたいのですが、同時に今もう寿命がきている、もうあと何年という生きている人たちのために即役立つような施策というのも考えていただかないといけないなということで、敢えて交通網の整備ということをここに取り上げました。ここには記載しなかったのですが、さっき橋本さんも若者に物足りない街ということで私もずっとそのことを考えているんです。そしてかなり若い優秀な人が県外へ学校なり何かで出て行って、国中の色んな中央で活躍していますね。それがみんな途切れてしまっているということが、それが残念だなというふうに思います。この間も、市長も来られていたと思いますが、谷篤さんの懇話会がありましてあん</p>

な優秀な方が津にもいらしたんだということで、そういう芸術文化ばかりではなくて政治でも経済でも医療でも色んなところで津から出ていった若い人が活躍していると思うんです。まだ一家を成すに至らなくても、やはりどういう現場で全国にどんなことでどんな活動しているかということ、津市に持ち帰って若い人たちにそれを聞かせてあげるような機会というのはできないものかしらと思います。リサイクルのように知名度の高い人はなかなか中央でやっている人はできませんけれども、それはやはり行政の方で系統的に年に何回かそういう人を呼んでお話を聞くとか、話し合うとかいう機会を持って文化をこちらに呼び寄せるっていうふうなこともあるんじゃないかなと思います。それは同時に県外にいる若い人たち、県外で活躍している人たちにふるさとへの意識というものを持っていただくということになるんじゃないか。自分の出てきた県のために何か役立つことはないかだろうかというパイプを作っておかないと気持ちがあってもなかなかそれが活かしきれないというふうに思います。今たくさん退職して色んな大きな体験をして戻ってきている人もいますが、なかなか津市の中でその人の持っているノウハウとか人脈とか色んなものを活用するまでにいかない。だから市の審議会なんかでもどんどんそういう人達を委員の中に入れていただければの視点でものを考えないようにということにして、行政の中にも視野を広げていきたいなというふうに思います。それは、前葉市長でないとできないと私はこの前の音楽会で思いましたし、前葉市長ならできると、別にお隣にいるから言うわけじゃありませんが、書かれたご挨拶一つ見てもやはり伴奏者への心遣いと色んなことをきちんと書いておられて、そういう視野を持っておられる市長さんがおられる間にもっともっと津へ文化を取り戻してもらいたい、体力を作ってもらいたいとそうように考えております。以上です。

南野副会長

はい、ありがとうございました。あいうえお順ですので、最後になりましたが、私から一言主張させていただきたいと思います。

私は商工会議所から推薦を受けて、この会議に出席をさせていただいております。今全国的に問題になっていることが一つあります。それは、廃業していく企業が起業していく企業の数よりも圧倒的に多いということです。ですから、会社を辞めていく、そしてまた商売していたのを畳む、この数が企業する数よりも圧倒的に多いということで、これが日本全体を衰退化していく原因の一つとなっていると思います。その中で、私は津の街はベンチャーを育てているような土壌づく

りを是非お願いしたいというふうに思っておりまして、自治体も後方支援、例えば税制面で優遇するとか、例えば事務所を無料で賃貸するとか色々な後方支援をしていただいて、企業を育てて、そしてその企業が収益を上げれば雇用も創出できますし、また税収入が増えるということもありますし、そしてそうすれば人も増えていくと。津の街には私自身感じるのですが、ベンチャー企業を育てるような土壌が全くないと。むしろ出る杭、打つのならいいのですが引っこ抜くようなところがありまして、なかなか起業しにくい土壌があるふうに感じる次第であります。商工業が発展してこそ街も活性化していく。ちょっと、突拍子もない提案を私書かせていただいたのですが、三重県には空港はないですが空港へのアクセスというのは整備がされておりまして、セントレアに向けて高速艇が出ておりますので、空港はなくても世界の窓口は広がっているというふうに考えることができます。以前、松阪にフジフェリーというのがありまして、夜出て朝東京に着くというのがあったのですが、これ完全な赤字でもう30年ほど前に多分廃止になったと思います。今後日本はどうなってくるのか言いましたら、投資立国または観光立国になっていくというふうに思いますので、その中心はやはり東京にあると。やはり、東京との直接のパイプを設けていただくというのは、これは民間企業では多分赤字になると思いますので、それを自治体がもし応援をしてもらえのなら最終電車に乗り遅れた人が船に乗って朝早く東京に着くとか、また東京から観光目的の方を乗せて、そして東京とのパイプを太くすることによって津の街を活性化するようなことができないかと、ただ単純に思いついただけですので、これができるかどうか、またどれくらいの負担があるのかどうかは考えてもいないところですが、そういうことがあれば津の街も活性化されるのではないかなというふうに意見を書かせていただきました。

市長、皆さんから色々な意見をいただいたのですが、何か感想なり意見がありましたらお願いします。

市長

そうですね。それぞれ非常に示唆に富んだお話をいただきまして、ありがとうございました。ちょっと、それこそ、南野さんよりも突拍子もない話になるかもしれませんが、10の市町村が合併しましたよね。今、各地域の地域審議会に行っていますが、それぞれの地域は、旧津市以外と言った方がいいのでしょうか、ものすごくアピール、地域のことのアピールが非常に活発に行われています。ま

だ半分くらいしか回っていませんので、感じですが。それはなぜかなと考えて、自己主張が激しいという言い方はちょっと失礼かもしれません。はっきりと、自分達の地域はこういうことをやってもらわないといけないんだとはっきりと議論が出てきています。それはなぜかなと考えてみたら、やはり旧津以外の旧9つは競争ですよ。やはり、取り残されてはいけないとか自分たちのところよりも他所の方がどんどん財政投資がいつてしまったら、自分たちの地域がある種遅れてしまうとか、そういうことのないようにという感覚をお持ちなんだろうなど。いい意味での私は競争が成り立っていると思うのです。一方、旧津はこの津地区に地域審議会を置かれているわけですから、冒頭ごつごつしたと申し上げましたのは、旧津市としてひょっとしたら合併したことによって本来旧津市であれば目が届いていた部分に目が届かなくなっているのではないのか、あるいは柏木さんが市議会におられたときに議論していたようなことが漏れているとかそういったようなご議論も、もっともっとあってもいいのかなというふうなことを正直思っております。それが一つ。

もう一つは、これはこの間県庁に行っていくつかの要望というか、県政要望してきたのですが、その中にこの津のイメージ、シティプロモーションというかをこう広げていく、東さんが最後に言われたような話とちょっと似通っているところがあるのですが、ためにどういうことをやらないといけないか。やはり、プラスのイメージをもっと打ち出していいんじゃないかなと。これはちょっと県民性とか市民性があるかもしれませんが、試しにこういうことを言ってみました。知事に、県庁職員の方が県外のお客さんなり県外の方と話をする時に、「どこですか」、「三重県庁です」、「三重県庁ね。県庁所在地、津でしたよね。津って寂しい街ですよ。人口も少ないし、何か中心商店街も寂れているし、夜のネオンもどんどん消えているそうじゃないですか。」というふうに仮に言われたとした時に県庁の職員はどう答えるかというと、大体三重県の人ってそういう時には、思わず相手に合わせてしまうんです。「そうなんです。大門の灯もどんどん消えてまして」とか、「もうシャッター街になってしまひまして」とか肯定してしまうんですよ。もうその瞬間に、もうこの津という街は「やはり寂しいところなんだな」と。全然、南野さんが最後に言われたように45分で世界と繋がっているとか、企業誘致がものすごく今好調だとか、財政運営もしっかりと29万都市になって150億の基金を、財政調整基金を持ってきちんとした財政運営をやっているとか、そんなようなプラスイメージってほとんど出ないんですよ。

<p>南野副会長</p>	<p>表に向かってですね。それで、是非、私が知事をお願いしてきたのは、県庁の職員、足元からそう言われた時に「そんなことはないですよ。津市は今こういうところは元気です」とか、あまり比べてはいけなけれど「お隣の市の大きな企業さんみたいな、ああいう景気の波に左右されやすいような企業ではなく、割と足腰の強い企業がいて、しなやかにやっていますよ」とか、そんなような何かプラスのことが言えるようにしてほしいですね、なりたいですね、それが三重県全体のプラスイメージを売り込むことに繋がるのではないですかねというような話をしてきました。</p> <p>ことほど左様に、やはり、できればこの地域審議会が津市でもっともっとやらなければいけないことを探していただくために色々ご指摘があったというのは、ごもっともだというふうに思います。それはそれで、私たちはきちんと真摯に受け止めてやらないといけないのですが、それに加えてもうちょっと明るい話ができればなど、計画ですから、というふうに思っております。</p> <p>個別にはどうでしょうか。少しお話をさせていただいていいですか。</p> <p>市長の方から少しお話いただければ。</p>
<p>市長</p>	<p>市川さんが言われた官と民の役割のところは、本当にこれからそういうことだと思ひまして、例えば、これはどんどん新しいものを作っていくか、それとも管理みたいなどころにもっとお金を投資していくかというのは、もうぼちぼち行政の方も考えていかなければいけないと。本当にこの草が生えているのをもっともっと刈り込みを増やさなければいけないというのであれば、敢えてちょっと道路を100m作るのを止めて、管理費にぼんと道路管理に乗せるとか。河川の話も後で出てきましたよね。杉本さん、河川の話がされた。河川を管理してきれいにする方を敢えて選択していくとか、これは県なのでちょっと県にお願いしないといけない面もあるのですが、そういうふうに変えていかなければいけない時代かなというふうに思っております、これ合併後10年は決められた、だいたいこういうことをやりましようと言われていたまちづくりの投資計画をやりますが、そこから先の持続可能なまちづくりということを考えた時に、そこはちょっと大きな議論になるだろうなと率直に思いました。</p> <p>内田さんが言われた中で、これも知事との話ですが、県の施設を津に置いていただく時に、例えば文化というのは柏木さんも言われてましたかね、確かに県の</p>

施設、津に多いんですね。博物館をどうしようかと知事が、当選された人が考えておられた時に、知事に博物館はとにかく文化の拠点、三重県の文化の拠点は津なのだから、今までも美術館もあり、県文もありということをやってきて、博物館をこのまま是非やってくれと。その代わり、それに対応する形で私たちはスポーツの部分はしっかりとやるのでということで、今津市体育館とか殿村市民プールとかあの辺を全部やり直さないといけないような時なので、今度津のインターの近くのメッセも引き受けて、そして100億の屋内スポーツ施設を作りたいと、こういうことをやっているわけです。ですから一応、津市はスポーツの方と文化を一応分けまして、県は大体文化施設を主にやっていただく、津市はスポーツ施設を主にやらせていただく、というのは県のスポーツ施設は全部市外にありますから。鈴鹿のスポーツガーデン、三重県のサンアリーナ、みんな津市以外のところにありますので、そこはバランスとしてほしいと、逆に県に頼んできたところですよ。

競艇はいつまでもできるとは私も思っていません。ですが、今、一般会計からはいっさい繰り出してはけませんので、一般会計には迷惑はかけていません。じゃあどうなっているかという、特別会計の中で過去の投資があるんですね。ツッキードーム、あれは平成12年に建てました、あれまだ償還し終わっていません。この償還するお金を稼ぐために、ギリギリでぐるぐる回してやっていますので。ただ一般会計から金を借りたり、一般会計から補助をしていたりということはありませんので。何とか借金を返すまでは必死で頑張りますから、営業もやりながら。その上で、将来のことはちょっと、このご提案いただいております水ビジネスみたいなことは、是非参考にさせていただきたいなとこう思いました。

大森さんが言われたように子育て世代を呼び戻す。例えば、教育機関。これは、橋本さんが言われた話と共通するところがあると思いますが、おっしゃる通りだと思いますので、若い人にどうやって魅力のある都市を作っていくかということを考えていかなければいけないなというふうに思いました。

柏木さんが言われている話の中で、スポーツ文化と、それから男女共同参画ですね、これもそうだと思います。数日経って、来月1日に配られる広報津で津市防災会議の委員を女性2人しかいなかったのを、一気に8人まで増やしましたということを書かせていただいています。ことほど左様に、一つ一つやっぴかないと、そのまま何も私が言わないとこのまま2人のままです。そこをアフーマティブアクションでやっています。これも一生懸命やっていきたいという

ふうに思っています。

竹之内さんの一身田、それはそうですね。その通りだなというふうな感じがします。一身田は、門前の道路のところは綺麗になって、やっと今年あそこで盆踊りできるようになりましたので、さらにソフト面も含めて頑張っていきたいなというふうに思いました。

富永さんの言われている防災、高齢者、救急、市民健康づくり、これも本当にそうだなと思いますので、この辺りは、市民健康づくりのスポーツ施設ですね、こういうのも確かに昔からあるのはあるのですが、ちょっと古くなってきたりというのもありますので、これを考えてみたいな、考えないといけないなというふうに思っております。それから、農家そのものの話もありました。これは、本当に農業政策も曲がり角だなというふうに、ここに書いてありますとおりバラマキということで農業基盤整備をどんどんどんどんやってきて、そしてその後、G A T T ウルグアイラウンドなんか以降は農業への補助金をどんどん出してきているということをやってきた。それが、これから先も続けていけるんだろうかというのは、正にその通りだなというふうに思っております。林業はすでに業としての林業を支援するというよりも、山を守るというところに政策が移っておりますから、農業も農業の業として支援するのか農地を守るのか。農地が農地のままであり続けなければいけないのであれば、農業をそこで業をやるというよりも農業を行われる場所を守るみたいな話になってくるのかなというふうに思いながら話を聞いておりました。伺いました。

東さんの何とか活躍をしている人という話、そのままそうだと思います。津高は130年記念の時に母校の教壇というのをやったんですね。去年から、そのミニ版でやり続けようという。ああいうのもいいなと思いますので、私も機会がある時にそういうことは考えたいなというふうに思います。

最後に公共交通の話で、確かにタクシー代で月2万というのは高齢者の方大変だろうなと思います。一方で、あのバス代で200円のバスが成り立たないと三重交通さんと何度話しても成り立たない。その中間的なところを住民の皆さんのお話も理解もしていただいて考えなければならないかなというふうに思っております。今、高松山で集合ワゴンみたいな話を議論していただいています。これは300円でいこうと言っていますね。200円よりも高いと。300円で本当に出来るのかどうかというのはまだ分かりませんが、そういうタクシーとバスの間みたいな料金を行ってでも、高齢者の方いいよとそんなのでもあれば動きた

	<p>いわよと言ってくださるかどうかというところで、ここももうちょっと皆さんのご意見が、お気持ちが集まってくればできるんじゃないかと思っています。</p> <p>すみません、ちょっと一方的に話しましたので、ちょっと前葉さん、自分の言いたいことをちょっと取り違えているぞとかいうことがあったら、是非言っていたきたいと思います。</p>
南野副会長	<p>時間もあまりないのですが、何か一言だけ、市長せっかく来ていただいていますので、言っていたきたいという人ございましたら。</p>
盆野政策財務部長	<p>議長、ちょっとすみません。前回報告させていただいたように、当初1時間の予定で過ぎましたので、ちょっと今、私、秘書課にかけ合って何とか10分、15分だけくださいということで、ちょっと限られた時間ですので、是非ご議論いただければと思います。</p>
南野副会長	<p>はい。</p> <p>どうでしょうか。</p> <p>富永さん、いかがですか。</p>
富永委員	<p>さっき、市長さんから聞いたのですが、やはり農地が宅地に変わるというのはやはり異議があるというか。道路整備で大きな道路があるので削ってやっているというのだったら、他に良い方向性があるかなという気はするのですが、やはり宅地になると、これはいけないという感じを受ける。</p>
市長	<p>土地利用規制の中で宅地になってもいい場所が宅地になってしまうということがあるのですが、それともう一つはいわゆるその農地の担い手がなくなってしまふことが問題なんですよね。ですから担い手を大規模化した農業会社みたいな民間の会社がやっていくのか、それとももうちょっと違う仕組みを何か作るのか、それはセットなんです。農地をお持ちの方は喜んで手放しておられるというのではないと思うんです。自分たちが米を作らないようになっているので手放している。この辺り、難しいのですが。</p>
富永委員	<p>農業のことについて、ほとんど無知なものですから、散歩に行ってそして農家</p>

	<p>のおじいさん、おばあさんに聞いてみて、色んな話をしてくれるのですが、これではもう農業も終わりだなという感じを受けましたが、これでいいのかと言うとそうでもないし、何とか米を作っていただく。私たちの小さい時には、裏作というのがありましたね。小麦作ったり、花。ああいう形でならないのかなという気はしているのですが、お年寄りにそんなことしろというのも無理かと思うので、どうしたらいいのかということも全然分からないので。</p>
<p>内田委員</p>	<p>ちょっと市長に質問なのですが、色んなことをやるためには財政的基盤がやはり安定していなとまずいと思うんです。現在の津市での税収と申しますか、その推移はどのようなのでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>税収はあまり変わっていません、実は。というのは、津市は固定資産税が大きいので。固定資産税は、あまり大きな変動をしないですね。県とかは法人事業税とかが大きいので、どうしても県の方が景気の波を受けやすいです。今、大体市税が、1千億の予算ですが、市税が383億ですね。3分の1強が市税。これはあまり変わっていません。</p>
<p>内田委員</p>	<p>というのは、今後少子高齢化がどんどん進んでいく場合に、やはり税収も落ちてくると思うんですね。それでなおかつ、そのお金から高齢者に対する色んな福祉政策とか医療とかを支出しないとイケないので、そういう税収自身の推移も落ちてくるとかなりやばいという気がして。</p>
<p>市長</p>	<p>ということで、今回消費税がああいう形になったんです。</p>
<p>内田委員</p>	<p>だから、そうするともうその消費税が今後上がっていくということを待つしか、何か。</p>
<p>市長</p>	<p>それはそうです。今回の8%、10%の議論は、結局地方における社会保障のための経費も全部国ベースでバクッとですが、計算して盛り込んで、そして10%にするのですが、そのうちの地方は1.86かな、2%ちょっと切るくらいが地方ですと決めてやった。なぜそんな数字が決まったかという、今おっしゃっている、自治体つまり津市とか三重県が負担しなければいけない社会福祉のための</p>

	<p>経費がありますよね。それと国の負担とを全部こうダーッと計算して、それでこれくらいと決まったのです。それから、独自の税収の努力というのは、もちろん企業誘致したり、それから人口が増えたりとかいうようなことで、あるいはビルが建ったりということが増えるんです。ですが、大きな流れで言えば、やはり国全体で決めてもらわないと、もう行政サービスのレベルを下げるしかないですよ。今の税収のままでいくと。それも一つの選択肢だと思うんですよ。どこまで役所にやらせるのかというところを、もうちょっと捨ててやってもいいじゃないかと、その代り税金安くしろというのは一つの選択肢だと思うんですが、今回の国会ではそういう議論がだいぶ出ましたね。ですが、やむ得ないということで決まったみたいですが。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>先日、総合計画審議会の委員会に出ておりましたら、市長冒頭におっしゃりましたが、委員会各委員さんが広いものですから色々な意見が出てくるんです。その中で津ではなかなか感じられないことをおっしゃる委員さんがみえまして、大森委員さんがおっしゃられました買い物難民のことを切実とおっしゃられておりました、大森さん何か具体的なことがございましたら、是非、今日、市長もお越しいただいていますので。</p>
<p>大森委員</p>	<p>前、こちらの方で意見を出した時に、東さんとも同じような意見でですね、住んでらっしゃる地域、どうしても中心街の商業施設もなくなり、どうしても郊外化していく中で、津市の中心部、私なんかすぐそばの南丸之内に住んでいるのですが、新町通りと言うとほとんどシャッター街になりつつあって、それなので食品を買おうと思ったら本当に困るというような状況で、なおかつその周りで私と同じような世代の子育て世代というのが、ぱっと見渡した時にどれだけあるのと言ったら、本当に少ないんです。同じ、私の住んでいる組の中でもこの2、3年の間に3軒から4軒の方が亡くなられて、空き家になっているんです。もう、それでいきなり9世帯、十何世帯あった組が、もう9世帯や8世帯というような状況で、この2、3年で本当に一気に進んでいると。私の住んでいる周りというのもそういう状況なので、津新町駅にぎゅーとらさん入ってますが、あそこも頼んで頼んでして今残ってもらってますというような状況で、あそこがなくなったら、じゃあどこに買物に行くのってパッと見ていただいたらもうすぐ分かることなんです。そういったことが、すぐ近く、市役所のすぐ近くで起こっている中で、魅</p>

	<p>力がないというか、買い物できるような場所がない。どんどんどんどん中心街からなくなっていく。交通機関の問題も東さんおっしゃってみえましたが、その中心部へ何とかいけるような交通網があっても、その中心部に買い物ができるところがなくなってしまったら意味がないんです。この間申し上げていたコミュニティバスの話であつたりとか、バスチケットが廃止になってという話もありましたし、そういったことを津だけの問題ではないと思うのです。実際、私が勤務しているのは四日市ですが、四日市でも大きな団地がある中で、団地の中には買い物できるスペースがない、車がない方は生活していけないんです。そうかと言いつつ歩いて買い物に行けるスペースがあるかということと全くない。今も新聞等々賑わせていますが、四日市の内部線云々かんぬんという記事が出ていて、多くの方ご存知かと思いますが、あの辺の近辺に私勤務しておりますので、見ていると本当によく分かるのですが、あの線路をなくすとご老人の方々どうしようもなくなってしまふんです。そうした現実がある中で、じゃあ街として市としてどういうことを今後考えていってくださるんだろうかということを実に思います。</p>
南野副会長	<p>旧の津市内でもそうですので、美杉の委員さんが切実と買い物難民が今後は増えてくるということをおっしゃってみえて、我々はそうかなというふうに思えるのですが市長いかがでしょう。</p>
市長	<p>本当に悩ましいですね。モビリティ、移動ができるのがどちらが移動するののかという問題で、買い物、売る側が移動するというやり方もあるでしょうね。考えてみれば、昔は万屋さんみたいなところがあつて、そこにちょっとしたものは置いてあつたという、そういう店も高齢化してもう商売してみえないというところに移動販売車が行くしかないとかそういう話で。買い物難民対策と言うのは行政的には販売に行ってもらう人を支援するか、買い物する人を動きやすくするかしないんですね。常設の店をしてもらうのはビジネスの世界ですから、成り立たないから撤退するわけでそれを支援してというのはちょっと難しいと思うんです。その辺り、どうすればいいでしょうね。</p>
大森委員	<p>私が先程、ちょっと住みたくなるまちと申し上げた中で、要はビジネスチャンスがあれば来ると思うんです。向こうも商売ですから。ビジネスチャンスがあれば来るはずなんです。じゃあ今、卵が先かニワトリが先かじゃないですが、そう</p>

南野副会長	<p>いう人口を増やす、子育て世代を定着させるという意味の中では、僕はそれも含めて言っているわけなんですね。中心街に人が集まれば、当然そこにビジネスチャンスが生まれるわけですし、そこに商売するメリットが生まれるわけですから。</p> <p>ご議論は尽きないと思いますが、そろそろお時間も参りましたのでここまでとさせていただきます。</p> <p>皆さんからご意見、ご提案を色々いただきましたので、審議会としてこの意見をまとめまして、津市の方に提出をさせていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。</p>
市長	<p>津市というか、総合計画審議会の方に提出いただいて、総計審の方で基本計画をしっかりと議論していただくということになると思います。</p> <p>今日はありがとうございました。私、ここで失礼しますが、是非、先程も申し上げていますようにご遠慮なく書いていただければと思うんです。そういうふうにしていただいた方が、こういう場所ですから、審議会という場所ですから多少濃い目に書いていただいた方がはっきりすると思います。先程申し上げました他の地域も、そういうことでどんどん主張が出てくると思います。多少、武田会長を困らせるくらいのもを是非ご提出いただいたらと思います。</p> <p>どうもありがとうございます。</p> <p>【市長退席】</p>
南野副会長	<p>それでは続きまして、議題2に移らせていただきたいと思います。その前に、先週の8月13日に第4回津市総合計画審議会が開催されました。その会議内容について、概要の報告をお願いいたします。</p>
山下政策担当 参事	<p>津市政策課の山下でございます。総合計画審議会の事務局を仰せつかっておりますので、ご説明させていただきます。</p> <p>前回の審議会におきましては、その前々回、7月24日に開催されました第3回からそれぞれ3つの分科会に分かれて審議をいただいています。具体的には、美しい環境と共生するまちづくり、これはまちづくりの目標が5つあるのですが、その環境の方と安全で安心して暮らせるまちづくりの2つを一緒にしたグルー</p>

プ。それから活力のあるまちづくり、これは本当に産業とか幅が広いのでこれ1つで1つのグループ。それから、豊かな文化と心が育むまちづくりと参加と協働のまちづくり、この2つを一つの班でしていただくということで、3つの班に分かれて3回、4回とご議論をいただいております。

そのうち8月13日は4回目でございます、それぞれ環境の話ですとごみ減量とか市民の方にもっともっと周知をしていくことを工夫しないといけないとか新エネルギーの話、それから安全なまちづくり、3.11の関係で防災、津波。ただ沿岸部だけと違って、いわゆる中山間地域、こちらの治山というのも忘れてはいけない、大切ですよ。結構津波のことが、色々言われてクローズアップされているので、ただ市域が広いからそういうこともご意見ありました。また、豊かな文化と心を育みまちづくり、参加と協働、この2つについては、やはり生きる力、育む力、教育ですね。地域と学校の交流とか家庭教育というのはやはりもう一度やり直すというか、充実していく必要があるのではないかとありますとか、生涯学習とスポーツでありますと屋内スポーツ施設建設がありますが、それに加えて屋外のことも少し考えていく必要があるのではないかと等というご議論が出ています。それから、活力については、まず企業誘致。これは人口の話も雇用の場の確保にもそれぞれ繋がる大切な話ということで、サイエンスやニューファクトリー、こちらの企業誘致を推進していくべき。また農業、農業の方もご議論がありましたが、地域の特産を生かしてということから芸濃のおそばなんかもありますよね、こういうのを生かしていけないとか、あと交流機能はやはり大事ですので、交通ネットワークの話とか公共交通の話とかこういった諸々の話について、それぞれで幅広くご議論いただいているということでございます。以上でございます。

南野副会長

はい。私も活力あるまちづくり委員会に出席させていただいておまして、その中で、一つ競艇の活性化というのを市の方から意見を出してくださいということだったのですが、市側としてはどういうふうになれば売り上げが上がるのかという意見を求められたと思うのですが、その意見とは逆にもう廃止した方がいいと先程の話ではないですが、公営ギャンブルは廃止するべきだと。特に、知識社会というのが進行していっていますので、なかなかこのギャンブルをさせて、税金を納めさせるという構造が今後の知識社会には合わないであろうと、こんな意見がありましたのでご報告をさせていただきたいと思っております。

	<p>先程、市長が退席される前に濃い口で意見を出してくださいということでしたので、2番目の津地域における地域課題についてということで、今から始めさせていただきます。</p> <p>何かご意見いただけませんか。</p> <p>【委員の意見を伺う】</p> <p>この意見につきましては、各委員さんが思うことをおっしゃっていただければいいのでしょうか。</p>
北川地域政策課長	<p>そうですね。先程も意見交換をしていただきました。その事柄を踏まえていただいてももちろん結構ですし、言い足りなかった部分あるいはもっと他にこうだったこと等、先程の将来像を実現していくためにはこういうところをこうしないといけないのではないかという辺りの意見をどんどんいただければなというふうに思います。</p>
南野副会長	<p>皆さん、どうでしょうか。</p>
竹之内委員	<p>さっき市長がプラスのイメージでものが語れない津の人がいるというような話があったかと思うんですが、出る杭は抜かれるとか津市の人はどうしてもちょっと謙るというのか、まあまあまあちょっといいじゃないかという感じのタイプが多いかと思うのですが、それはすごく変えるというのは方法としては小さい時からの教育というのか、ものすごくちゃんと主張できるような子育てとか、でも一方、今すごいいいじめの問題とかあるし、そういうことを考えると津の風土、気候にあった性格が形成されるのは良いことだと思うので、逆にその人をうまく盛り上げてそれを地域の力にするとか、そういうような主張できる人をきちんと立てて、それをうまく私たちが言葉は悪いですがコントロールしていくとか、そういうようなことで市の財産に、人間の魅力に繋がればいいのかなとちょっと取りとめもなく思いました。</p>
市川委員	<p>そのプラス思考の話で、よくテレビなんかで自分の我が街を自慢する時に、何とかで1位とかありますよね。津は短いので1位、鰻を食べるの、何かそういう</p>

<p>盆野政策財務 部長</p>	<p>色んな誇れる材料というか、そういうのは広報かなんかにはどうなんですかね。</p> <p>たくさんあります。鰻の消費量1位であるとか。</p>
<p>市川委員</p>	<p>鰻とその津市くらいしか思いつかなかったんですが。だから、そういうのももっとも子どもたちに、もっともっとプラス思考というか。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>何か他に1位のものがあつたら。</p>
<p>盆野政策財務 部長</p>	<p>例えば、小さな御殿場海岸に年間、本当に1月くらいで30万人、40万人の観光客が潮干狩りに来る。大阪では知る人ぞ知ると言いますか、潮干狩りと言えば御殿場で、なかなかこれを津の市民が知らなくて、外からという部分があつたり。私どもも、ちょっと言葉、旬ネタと言いまして今年からのシティプロモーションを私どもの広報にいただきましたので、本当に毎週のようにホームページをとっかえひっかえ書き換えて、何かできないかなというので、初めに観光というところをポチッと押してもらおうと津城が出てくるだけとか、津市のお花はツツジですとか。ちゃんとこれをストーリーにしていくな中で、そういう旬ネタというか春の時でしたらこういうネタで、冬ならこうという中で少しずつやっていたら、嬉しいことに先月でしたか、月40万ヒットまでアクセスが増えてまいりまして、各総合支所の便りでもNEWというのがつきますと、それで見ればよとかかなみたいに見ただけです。それと、バナーと言いまして、ぱっと見ると大きな項目があります。これ何だろうみたいなことで、例えばオザスコ市って姉妹都市に行きましたら向こうとリンクを貼りましょうということで付けたら、何と1週間で5000ヒットとかいただいたり、やはり工夫なんだなということで、紙ベースでもケーブルベースでも色んな思考錯誤はやっております。本当にたくさんネタはあるのですが、なかなかやはり告知下手と言いますか、それが本当に悩みの種です。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>今も盆野部長が御殿場というふうにおっしゃいましたが、柏木委員の中に好きです津の街、津の海が、これ歌があつたんですよ。ポップス調のなかなかいい歌だったので。何か街が広がったということで、柏木委員さん、具体的な津の</p>

<p>柏木委員</p>	<p>街をアピールすることがございましたら、ちょっとご意見をいただけますか。</p> <p>先程の市長のお言葉の中に他の旧の津市以外の市町村が、やはり競争なんだと。それで自分のところに予算なり、事業を持ってきてほしいと。なるほどと分かったところなのですが、そういう意味では旧津市は待っていても色々と満たされるものもあるし、まずは津市からという考えもあるでしょうからということであまり慌てないというか、長子的な、兄弟で言えば一番の長男、長女的な考えなのかなと思います。それは良いところと言えば良いところですので、ひっくるめてということもあると思いますが、もう一つ今気になったのは主張できる人増やすとか、これは思考を表現できる人を生み出すという話がありましたが、やはり先程参画という話、地域防災会議に8人の女性を増やしますと、今回こういうことが話題になったのですが、他の審議会なり委員会なりいろんな場面に、あるいは自治会なんかでも女性の数というのは非常に少ないんです。組織的にはやはり改變していかないと体質は変わっていかないというふうに思います。津市の人口の半分は女性です。半分は男性です。その女性の声がほとんど通っていない。女性の発想なり、直接意見が言える場所をもっともっと作っていくという、市長のおっしゃったポジティブアクションということは、もっと進めて、進めていくとよりよい津市、男性の知恵と女性の知恵が相乗効果を発するのではないかなというところがとても思うところです。子育てのこともちょっとご指摘がありましたが、子育てはお母さんがするものではないので、母子支援ではなくて、これからワークライフバランスの中で男性も家庭に地域にというところですから、そこを含めて若しくは発想を変えていただいて、子育てはお母さんではなくて、厳しい中で働くお母さんも増えてきていますので、共にとか地域で子育てという視点で子育て支援を、男性にも地域にも関わっていただける子育て支援を組み立てていただきたいというふうに感じました。旧津市の話じゃなくて恐縮なんですけど、私も長女なのであまりこう要求要求というのはできないタイプですから。でも言うていただく意味は伝わっているのではないかなというふうに思っています。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>津市として子育て支援は他の市町村と違った特色とかいうのはあるのですか。支援策というのは。</p>
<p>山下政策担当</p>	<p>まず、誇れるというか言えるのは保育所の数です。東京とかいくとずっと待つ</p>

参事	<p>て、待っている間に小学校入学だとか。それで、色々子ども手当ですか、あれも保育園作るのにお金回してという意見がたくさんあると思いますが、津市は4月時点ではどこかには入っていただいております。どうしても途中から、人口異動しますから、入ってもらえる方、入りたいとおっしゃる方が出て、10月くらいに80名とか90名とか一時待機が出ます。それも翌年の4月に解消されますが。保育環境というか保育所というのは結構充実していると言えるかなど。実際、途中で待機が出ますから、前葉市長はそこも解消しなければいけないということで先程も県の方をお願いしたという、認可であるとか建てる時の支援とかそういうことも含めて、当然市もやりますが県もということで、さらに精力的にやっています。それが一番子育て、ベースがあるということが大きいかなと思っています。</p>
橋本委員	<p>そういうことをもっとアピールしていただいて。全然気付かない。</p>
盆野政策財務部長	<p>ちょっと補足いたしますと、毎年秋口というか10月1日で本当にもう80名とか90名、年度によっては変わりますが、4月には入れると、0になると。だけれども、10月から4月まで当然働いていきたい、社会進出したいという方がいられる中で、もう23年からこの90人も0にしようということで、民間保育園、例えば23年の9月で保育園、民間でも1園新設、私ども公がやっているところが1園増改築で、130名例えば増にしたとか、今年の計上も来年にまた民間の保育園の増改築なんかも補助していこうと。子育ての推進は、大きくは3つの柱を持っておりまして、一つは皆様にもいらっしゃいますが民生委員さんとか児童相談所のところと連携して色んな親身になって相談できることとかすぐに通報でどうしたらいいというようなネットワークづくりが一つです。それから、妊産婦医療の助成とか赤ちゃんの保育支援の訪問であったりとか医療費助成、これもこの前議会でもお認めいただきまして色んな拡充もしていると。それともう一つは、地域全体で子育てを行う仕組みづくりということで子育て支援センターですね。これが、保育所併設の12か所であったり、芸濃とか安濃は2か所独立していると。一生懸命、まずは交流の希薄化を埋めるために、地域の委員の方々と共にまずはソフトの面というか精神面でも繋がっていようと。しかも、ハードの部分これからに向けてきちんと整備をしていこうと。もう一つは、やはり幼稚園は5割くらいしか入らない。保育園は100%を超えている。この辺りをど</p>

	<p>うしたらうまくやっていけるだろうかということ、オープンディスカッション等でもきちんと皆さんにご意見いただきながら、例えば第1回は幼稚園の施設とかは一切なしに、もう本当に利用者の方だけにお声をいただいたと。2回目は、じゃあ逆にそういう施設を運営なさっている方とかこういうことに参画している方々のご意見と。こういう違った角度の見方をみて、それでまとめていこうということで、この子育ての推進については、かなり力を入れていると思います。ただ、先ほど申しましたようにPRが下手と言いますか、そういったところは質に頼っておりますので、今年シティプロモーション元年で私ども政策財務部に広報をいただきましたので一生懸命やっていきたいと思っております。</p>
<p>富永委員</p>	<p>ちょっと質問。幼保一体化というのが国では言われていたが、津ではどうなんですか。</p>
<p>山下政策担当 参事</p>	<p>まず、幼稚園と保育園の良いところをとって一緒にカリキュラムを組んで、一体的にやっていこうということで、白山の方に乳幼児教育センターですか、僕らが見ると建物が1つに見えるところに幼稚園と保育園があります。それから同じように香良洲にも浜っ子幼稚園ですね、同じような形態のがあって、もう一つ一志にもある。今、もともと文科省と厚生労働省が割られている縦割りで実際のニーズが幼稚園だと昼からもちょっと見てほしいというのものもあるし、保育園でもう少し幼稚園でしているような教育をとる実際のニーズはあるわけです、市民、国民の。それで、ちょっと縦割りになっている中で何とかずっと長年、長年やってきて今、津市もそういう形の中で先進的にある意味合体しているというか、隣にくっついているとか一つの屋根だとかありますので、今そこである意味実証的に連携したりしております。その国の方の当然制度改正等々の話もあるので、ちょっと法律ですが、平成27年度からですかね、連携した形で申請をしてやっていけるという。今は縦割りで2つが1つにくっついているので手続きの書類がややこしいのですが、国の方も制度改正をしますので、そんな中で今もうすでに先進的にやっている事例。それから、先程部長が言いましたオープンディスカッションもそのことについて話していますので、更にその成果も踏まえて進めていこうという考えです。</p>
<p>市川委員</p>	<p>オープンディスカッションに私も第1回目出させてもらったんです。パネラー</p>

<p>盆野政策財務 部長</p>	<p>で出させてもらったんですが、その時に岡田副総理もみえて、本当に三重県の津市が先端になってその方面にも影響したと市長さん言ってみえましたが、すごい明るいことだなと思って、すごい楽しみだなと思って。第2回目終わって、第3回目。その点は本当に自慢していいんじゃないかと思って。</p> <p>すみません、少し。ちょっと国の悪口を言いますが、国は子ども子育て新システムで質の高いものだとか保育の量的な拡大とか難しいことなんです。我々というか津市でこのオープンディスカッションに取り組んだのは、津市が独自に進める幼稚園と保育園の一体化は何かと、市川委員さん入ってもらって分かっていますように、国の考え方をそのまま受け入れずに何があるべきだという部分をきちんと議論を皆さんでやりましょう。実証としては、今山下が言いましたように、例えば浜っ子幼児園、香良洲では幼保が一緒に合同運動会やりましょう、それから白山の乳幼児教育センターは例えば稲刈り体験しましょう、それから一志の高野の保育園と高岡幼稚園は合同で一緒に物を作りましょうとか、そのとこそのとこ地域の中で色んな親御さんのご意見も入れて本当に自分で何ができるか。それで、確実的でなくて、その地域地域、特色をきちんととらえて保護者の皆さんに喜んでもらえるようなやり方をして、進めていくことですから理解が得られるのではないかと。もちろん、地域の取組も大事ですが、委員がご参加いただいているような形でのオープンディスカッションで色んな意見を統合して、やはりこの地域、津市にあった本当に住民に寄り添った形の独自の保育ができれば、それに対して我々はきちんと責任を持って財源も充てていこうというような形で、今まさに進行中でございますのでよろしくお願いします。</p>
<p>内田委員</p>	<p>よろしいですか。津市のような人口30万前後の都市というのは、全国的にみれば似たような感じなんですよね。どこの全国行っても。だから、津市が今後アピールするにしても、生き残っていくためには津だけの独自性というのがかなり必要だと思うので、とりあえずは何かをやるためには10年単位とか20年単位の施策なり事業計画が必要なのですが、とりあえずできるのは今言われたように津市が現在全国レベルでもすごくいいところにいると。例えば、海岸の潮干狩りだとかジャンルとか分野を問わずそういうものをピックアップして、それを何か改めて、津市が一番でなくてもいいのですが、全国で5番目だとか10番目というような色んなものを抜き出して、それをアピールすることでかなり津市</p>

	<p>というのはそうなのかということ、色んな人知ってもらえるのではないかと。それがプラスの心。もう悪いことを言い出したらきりがないので、こういった大体似たような、30万都市と言ったら似たようなニュアンスです、どこ行っただけ。中心街はシャッターになっているとか、郊外に全部大規模スーパーがあるとかそういうような感じで、結局はほとんどの人は津の人だって重要な買い物になると名古屋に行ってしまうとか、そういうようなことはもう全国的に当たり前になっていると思うんですね。そういうことを言い出したらしょうがないかな。それを変えようとしているのは、やはり法律を変えないと、国の。やはり変わっていかない、津市だけではどうしようもないこともあると思うんですよ。だから、それなら現在の段階でそのすごく良い点を抜き出したらどうかと思います。</p>
東委員	<p>よろしいでしょうか。文化施設の話なんです、生涯学習ということが言われて、今色んな人がすごく活発にやっていますね。確かに、ホールもあるしリージョンもあります、実際に音楽活動とか芸術活動をやっている人は練習会場がないんです。それから、300人くらいの規模のコンサートホールみたいなのが、もう一つ津市にあるとすごく助かるなという話をしているんです。若い人がすごく熱心にやっていますし、何か街の中の空き家とか、そういうものを何か上手く、練習会場にするにあたって。</p>
南野副会長	<p>それは防音設備も整っているということも含めて。</p>
東委員	<p>ご近所にやはりご迷惑をかけないような形で、ちょっと市の方でそれは何とかならないでしょうか。</p>
盆野政策財務部部長	<p>実はそれは2つありまして、1つは音の出る太鼓みたいな打楽器で、これはかねてから色んな伝統芸能の団体さんが、練習場所が少ないと。それと合唱であったり、皆が参加できるような部分の中で何とかできないかと。たまたま、渡し平成7年から12年の間に文化課でホールの自主事業をずっと担当していた時も、年間に50事業くらいやっている中で、ほぼ1日べったりそれに付くわけです。やはり、その日よりも練習の方がもっと大事と。優秀な映画鑑賞を何百万もかけるよりも、ただ1日だけ貸していただければ高校なら高校三高校が集って色んな形でできると。そういう中で一生懸命、我々は自主事業というのを大切にしてく</p>

	<p>て、どんどんどんどん参画していただいて、今の市民文化祭があるのですが、実は今年に劇場法というのができまして、例えば博物館というのは博物館法に基づいてこんなことをやると、それから美術館というのはこういうような形だと。じゃあ音楽ホールって何なのって全く今までに決められた方向性をいうか一つのきちんとした方向性がなくて、これを今回真摯にきちんと地方公共団体なら団体でやらないといけないというスローガンで法律が通ったと。秋口までに、私、市長自ら政策協議に入ってもらい段取りをしているのですが、今いくつかリージョンプラザであったりアストのホールであったり、これがまたまちまちな使い方であったり、それから先程おっしゃるように色々な団体は誘致できても、普段の一番の基本となります皆さんの練習会場にどこまで貢献できるか、ゼロベースで全部見直したいというふうに今思っております。谷さんのコンサートでもそうですが、同じ谷さんでも谷友博さんっていう人がいらっしゃって、バリトンであそこの一番後ろでも耳が遠くなるくらいの声量を出される、こういう方が本当にたくさんいらっしゃる。こういう方がやっぱり言われているのが、やはりこっちに帰ってきて練習会場がないと。コンサートはできても練習はできない。このアンバランスの中で、どうしたらそういう方々にご利用いただいて、もっともっと回転率が上がるか。これ、きちんとスポーツ文化と私どもで政策協議をやって近いうちに方向性を定めさせていただく予定ですので、よろしく申し上げます。</p>
南野副会長	<p>音楽なんかをやられるかたはどうしても1日何時間か声を出さないと、自分の声量というか保てないと思いますので。東京で勉強していた方が、津の実家に戻って練習するような所がないというようなことのないように文化を守ることと取り組んでいただければと思います。何か文化に対して津市が補助をしているとかそういうものはあるんでしょうか。</p>
盆野政策財務部長	<p>これは現実的な場合の自主事業で、優秀な色々な演劇、芸術色々なものを鑑賞していただくための文化振興事業と、それから市民の皆さんが参画していただきます津市民文化祭のような事業。これは、要は洋画展、絵画展から尺八等のコンサートまで、本当に幅広い中で色々なホールを使ってやっていただいていること。それから、文化芸術では市民美術展覧会のようなことで、その他本当に完成品のものはたくさんありますし、中学校何かにも青少年芸術祭という名前でもう何十年と各学校の方々が成果を発表していただいたり、昔は薪能の先生が無償で各学</p>

<p>東委員</p>	<p>校でお能をご披露いただいたり。そういう中でも、また戻るのですが、やってみたいという方がなかなか練習場所がないと苦しんでおられる姿もよくわかっておりますので、これ以降はそういう芸術文化の鑑賞に加えて、参加の中でどうしたら公共施設でもっと自由に利用していただけるか、こういうことを考えていきたいとは思っております。</p> <p>もう一つすみません。若い方の話で、なるべく活動していただきたい。それから今、公民館活動はかなり高齢の方がやってらっしゃるのですが、駐車場の問題があるんですね。とにかく車が入らない。それはもう難しい話なんでしょうか。よくあっても、さっきは足がないという話でしたが、車が持っててこちらの講座に行きたいという方も、どの公民館に行ってももうびっちりなんですよ。だから、別に無料じゃなくても何か有料にしてもいいから利便性を考えていただいた方が、もっと皆さん参加しやすいんじゃないかなということを思うんですが。</p>
<p>山下政策担当 参事</p>	<p>市内合併しましたので、確かに元々古いところはそんなに車の時代ではなかったもので、10台が目一杯みたいなこともありますね。この辺やはり車社会ということも含めて、おっしゃっていただいたように有料でもいいからという、そういうご意見もありますし、どうしても前からのことだとどうしても無料でとおっしゃられるところもあって、1個1個土地を買って近くに建ててというのは直ちにしていくというのは難しいのかなと思いますが、やはり車で来られる、津市は車ないというのを改善していくというのも当然公共交通とか必要でしょうけれども、現実見据えれば明日から皆がバスになるわけではないので、そういうことも検討していかなければならない。具体的にいうとちょっと難しいところもありますが、この辺で言えば中央公民館がセンターパレスに移転するということでも駐車場というのはご議論いただいているところですので、しっかりその辺は現状見据えてやって。</p>
<p>東委員</p>	<p>割に公民館の周りに空き地があったりしますのでね。</p>
<p>山下政策担当 参事</p>	<p>そうですね。例えば、そこを借りるというのは一つの方法としてありますね。</p>

東委員	方法として考えていただいたらいいなど。
盆野政策財務 部長	公民館は、本当にすごく利用頻度が高い、市街地のところなんか。たまたま、私は栗真ですので、白塚の公民館であったり、一身田をよく利用するのですが、こういう地域はやはりしっかり、ある程度の土地が確保されていますが、例えば中央をご利用いただく時にはリージョンプラザとかからわざわざ歩いていただかないといけないとか、色んなことで駐車場不足というのは実感しております。
東委員	中央は良いですね。 配慮していただけたらと思います。
山下政策担当 参事	生涯学習とか文化とかの観点からいけば、文教都市という面もありますから。ありがとうございます。
南野副会長	駐車場の話なのですが、私たちが子どもの頃は津球場で中日対近鉄というオープン戦があったんです。それと三重県の高校野球の決勝大会も津球場でやっていたんですが、最近全部四日市に行きましたので。それはなぜかと言いますと、球場の近くに駐車場がないと。そういうことでオープン戦も高校野球の決勝もできないというようなことを、この間の総合計画審議会で話題になりまして、体育館とか球場というのはあのままなんじゃないかな。
盆野政策財務 部長	早く屋内スポーツ施設ができて、完成されてあとは土地利用の中で本当に駐車場が第一優先だという声が高ければそういうことになってきましようし、本当に早くスポーツ施設が全部、建設が後3年、4年かかりますが、その中で議論と同時になるべく早くあそこも着手できればいいと思います。やはり、そうですね。駐車場、本当にどの施設に行ってもやはり駐車場というのは今の社会では必要かどうか、必要不可欠条件ですもんね。
柏木委員	よろしいですか。ここにも書かせていただいたのですが、住民自治基本条例を作ろうかという話が一時期あったかと思うのですが、その件について、やはり市民力こそが多様化する市民のニーズを汲み上げていく行政との協働の相手としては条例が必要だと思いますが、その点はいかがなんでしょうか。

<p>盆野政策財務 部長</p>	<p>はい。これも、ごめんなさい。私どもの前回の、今日傍聴の議員の先生もおみえになりますが、議会でもご質問いただく中で、本当に結論で、そういう意識があって、本当に市民の皆さんから湧き起これば、だめということは全然ないですよ。正直、私どもが数年前から自治基本条例の色んな取組をする中で地域地域でモデル事業なんかをやりませんかということで、一生懸命お声掛けさせていただいて、本当に1件しかなかったとか、なかなか現場に入っていくと、言葉はあれなんです、形だけのものじゃないとか制約の中身がはっきり分からないとかいう部分の中で、なかなか住民の皆さんに是非やりたいという方とそんな形だけならやらなくていいじゃないと、本当に色んな意見が分かれております。本当に、自治基本条例、7、8年前がピークでしたか。1800の自治体で100くらいパタパタといった後、ほとんどその数というのは増えていないような状況なんです。というのは、本当に中身の伴ったものをしていくためには、やはりある意味、制約を受ける条例ですので、住民の皆さんは。しっかりと中身を検討していこう、形だけでなく一回その仕組みをモデルパイロットでやってみよう、この結果こういう良いことと悪いことが出て、これをやるよという部分の中で少し時間がかかりながらやっているのが、日本全国の現状だと思うんです。市長もこの間の答弁の中では、私どもがやりましょうとかやりませんじゃなくて、住民自治基本条例ですから、住民の方の思いが第一ですと。これが本当に盛り上げていただいたら、それはもちろん取り組むのにやぶさかではないという中で、住民の皆さんにそういうのを取り組んでいただける何かきっかけづくりを考えていかなければいけないなど、考えて色々なところへ、芸濃さんが手を挙げてもらっていたのですが、なかなか20、30も色々な協議会さんに断られてしまってどうしたらいいのかなみたいな部分で悩んでいた時もありました。何か自治基本条例とは何ぞやというような難しい部分から入ると皆さん、自分たちの街を良くするためにはやはりルール作ろうねとか、じゃあどうすればいいのみたいな中で一つの切り口を変えていただいて盛り上げていただくのもいいですし、それから去年の3.11以降本当に絆の大切さとか、それを再認識される中でまたそういう方面の中から色んな意見があがってくるかもというようなことも期待しております。そういうを是非またこういう切り口であれば成功するんじゃないかみたいなことをまたご提案いただければと思いますので。</p>
<p>柏木委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>

南野副会長	橋本さん、先程津には親子で楽しめる施設がないというふうにおっしゃっていただきましたが、どういうふうな施設を作れば。
橋本委員	私、孫がおりますが、孫がうちに遊びに来た時に、さあどっかちょっとというところがなくて、いつも遠くまでわざわざ出掛けているのは何でかなというふうにして。アスレチックでも何でも、本当に津の公園ってブランコと滑り台しかないんですよね。もう少し今でも色々、多少お金を払ってでも遊べる、サティの中にゲームの横に、ご存知かどうか、ふわふわしたところに子どもたちがお金を払って遊ぶのご存知ですか。風船したり、あれすごく流行っているんですよね。でも何か見ているかわいそう、こんな狭いところでこんなをやっているとは思いますが、それでもすごく流行っていて、お父さん、お母さん結構遊ばせている。今どき、アウトドアで遊ばせている、そこへブランコも普通のブランコじゃなくて、ちょっとお金を払うことで変わったブランコをやっておられたし、今どき確か色々な遊具があるはずなんですよ。ただ安全性をいうことを考えたり、管理というのを考えると色々危険なところもあるのかなと思うのですが、やはりお父さん、お母さんもこの近くで遊べるような、もっと楽しいところあったらいいなと、私も孫を連れて遊びに行きたいなと思えるところがあったらいいなと思うけど、まずちょっと今のとこないなというのが。
盆野政策財務部長	サイエンスシティの中に公園があるのですが、本当に多目的な、遊具というかアスレチックのようなものと組み合わせたような色々なものがあるんです。一度、また。
橋本委員	あそこも。お江ちゃん、お江さんの。
盆野政策財務部長	本城山の方ですね。
橋本委員	あそこ行った時に、あそこはちょっとアスレチックありますね。あそこに孫を連れて行った時、奇声を上げましたよ。キャーって嬉しくて走って。えっこれで喜ぶのかと思うくらい、キャーって言って二人の孫が走って遊んでいる姿を見た時に、あそこで本当に親も楽しくなってずっと長いこと遊ばせてもらって。やは

<p>盆野政策財務 部長</p>	<p>り、そういうところがもうちょっと身近な所にあってほしいな。</p> <p>あれも職員のやる気と言いますか、実はお江さんのドラマがあった時に南浦参事は河芸総合支所長で、自分から毎朝草刈に行って、そこでものを、資料を販売しようと。やはり、総合支所の取組というかやる気だと思います。1日何人とおっしゃってみえました、多い時に。</p>
<p>南浦地域政策 担当参事</p>	<p>一番多い時に600、700人くらいですかね、資料室に入っていたのは。資料室1年ちょっと開けたのですが、3万人を超えるくらいのお客さんが来ていただきました。資料室入らないお客さんもいっぱいおみえになりましたので、ちょっと人数分からないのですが、大河ドラマの時は結構河芸というところは本当に通過するだけの街だったのですが、中に寄っていただいて地域の人も喜んでいただいたのですが。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>本当にきれいになっていて、資料館も入りました。</p> <p>あそこにお相撲のできる、あれは利用されているんですか、実際に。珍しいものを見たなと思って。</p>
<p>南浦地域政策 担当参事</p>	<p>私はびっくりしたんですが、あそこにお市の方とか3姉妹が住んでいたところに相撲場があって、アスレチックがあって、建物は鉄筋で建っていましたよね、資料室が。あれをもう少し工夫をしていただければと思ったのですが。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>そうですね、あそこはもう少し風情のある建物だとよかったかも。</p>
<p>盆野政策財務 部長</p>	<p>そのご意見は、今スポーツ文化と建設部と総合支所が管轄している公園が、この3つに集約されますので、責任を持ちましてこれから設置管理についてはそういう視点を持ってくださいということできちんと流しておきますので。私どもも財政の時に協議させていただく時に、その視点を忘れずにこれから進めさせていただきますので、お願いします。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>杉本さん、カレイやコチが住めるような海づくりということをおっしゃってもらっていましたが、これは津市にも協力してもらおうようなこと、具体的なことあ</p>

<p>杉本委員</p>	<p>りましたら。</p> <p>一応、海でいうと県ということで、担当は。だから、市から県にあげていただくというのが基本だと思いますが、ちょうど今から50年くらい前には、部長さんも言われましたが、白塚の海から今の御殿場までは魚、本当にカレイ、コチ等々揚がっていたんです。そういう時代にしていこう。というのは煮干しというのは、そういう時代はずっとありながら、海が汚くなって消滅したんですが、もう一度その海を綺麗にさせていただくと、カレイやコチやシャコ、小サバ、小アジとこういう魚が獲れるんです。煮干しも小サバも今沖に行っているものですから、タカでも獲れると。そうすると水産加工の組合員がそこで加工ができるんですね。そうすると雇用は生むんです。実際、今、白塚の水産加工は220あったのが今は22です。もう10分の1なんです。というのは、魚がないものから、煮干しがいないものから自動的に。台風の最後のときですかね、伊勢湾台風、あの時に半分は流されたんですが、それ以降からも消滅したという格好。海も汚くなった。もう一度、そういうのができると白塚全体じゃない、一身田、大里からでもたくさんのお仕事に来ていただいた、大体1500人くらいはお仕事、漁師、漁と加工場と。そういうようなものをもう一度していくことによって今後はどのようになるかという、下水の汚いものをきちんと整備を、これは今県がやっておりますが、これを早めにスピードアップしてもらわないと。毎年するんですわ、5年後にするんですわとって2年延びて、また5年後って言って、もう実質には仕事は何をしているんですかと、素人から見ると。計画したら、計画通りいかないと、その半分以上も伸びていると。それをもっとどんどんと投資をしながら素早くすると自動的に海がきれいになると魚が取れたら加工場ができる、人がそこへ勤められるということを私は常に思うんです。それ早急にしてほしい。それともう一点は、今部長さん言われるように、津市の御殿場は海水浴と香良洲の海は貝ですかね、そういうのがあるというんですが、白塚、町屋の岩田川、塔世橋から下がったところのクラボウのそばで、あそこで本当にたくさんの貝が獲れたんですよ。今でも獲れるんです。獲れて大阪や名古屋っていう車がどんどん来ていたのですが、あそこいつの間にか駐車違反にされていて、道を。そばに、普通の家がありますので若干しないといけないですが、そのそばで三重大か津市の土地か県か分かりませんが、空いている土地があります。北側に、こちらから向かって左側に。堤防のそばに。あそこは子どもが確か少年野球がしていたグラウンドで</p>
-------------	---

	<p>す、今はしていません。そういうものをその時期だけ利用するようにすれば、もっと海岸も良くなっていくということで、御殿場や香良洲の宣伝をしないでもっと北側を、河芸、白塚の方も、町屋の方も、そういうのをすると宣伝してもらえる。もう津市の海は全部それがありますよという一つに。ただ個別だけでせずに、全体をしていただきたいなど、こういう気持ちです。</p>
<p>柏木委員</p>	<p>海の関連で、御殿場のビーチバレーはとてもすごいなと思って、良いことだなと思って見えています。それからヨットハーバーというとても大事な場所もあるんですね。ハーバーなんて、世界級の大会ができる。スポーツは実はマリンスポーツしか津にはないんですが、あそこをやはり活性化できてなくて、市民が入ってはいけない場所のような気がしているんですね。あそこの活用は課題だなとかねがね思っていました。もう一つ、岩田川となぎさまちを繋ぐ橋を作ろうという話があったりなかったりというのがあるのですが、あそこが繋がると海岸とずっとメリットが出てくるんですね。それこそ、白塚から香良洲までという。やはり津は津ですから港があってという。活性化のためにはあそこに橋を、車を通すかどうかは別にして、人が遊歩道として使えるような橋でもいいので、通すともう少し全体が活性化、北から南までがいくんじゃないかとずっと思っていますので。それが津の課題かなと思います。</p>
<p>杉本委員</p>	<p>それに関連しますが、河芸から島崎までの河芸島崎線、今、実質的には協議会ができてもう13年になるんですね。そうすると、今23号線に出ておりますが渋滞します。その渋滞したところで海岸にもう一つ道ができると迂回しないで済むと、今23号線がスムーズに流れると。こういうものの考え方で市や県にも要望して、協議会として。この30日に市長さんにもお願いして県もお願いするということになっておりますので、それも早急にしていただきたいということで、今は。そうすると自動的に江戸橋の橋を県に早く架けていただいて津に出られると。そこで止まってしまうので、クラブウのところに橋をきちんと架けていただきたいということで。</p>
<p>内田委員</p>	<p>堤防道路ですか。</p>
<p>杉本委員</p>	<p>そう堤防道路です。堤防は道路じゃありませんので、別に道路として作って</p>

	<p>ただくということになっているんです。そういうことで、今混んでいますので、やはり県の方がもう少し力を入れていただきますともっと早くできるだろうというのは今。</p>
<p>柏木委員</p>	<p>そうですね、やはり海は大事にしたいですね。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>大森さん何かご意見ありませんでしょうか。</p>
<p>大森委員</p>	<p>先程、結構思い切り言わせていただいたのですが、あと全く関連性ないのですが、防災の関係でこの3. 11で私の知人のご家族の方々が被災をしまして亡くなられた方がみえたのですが、その時の知人からこんな話を聞いたのですが、83歳のおばさんが避難するのに、津波にあつてずぶ濡れの状態だったのですが、近所の人におぶってもらって避難をしたと。それで、避難所に市が指定していた場所が学校の体育館でしたもので、避難をしました、ですがそこへは救援物資が何もない。毛布1枚すらなかったと。翌朝、凍死して亡くなられたと。そういった方がその体育館で5名ほどいらしたらしいのですが、寒さで凍死をされたというようなこと。津の場合は極度の冷え込みやそんなのでということはないかも分からないんですが、ちょっといろんなところで聞いている中で避難所と、避難訓練をされている自治会さんですとか色んなところで避難物資とかを備蓄されていると思うのですが、それって実際のところの数とそこに避難される方々の数ですとか、ちゃんと計算されたものが配備されているのかなというようなことを疑問に思っていたんですね。最近、ちょっと県の方でも、白い小箱運動というのですか、ああいったようなことで県で調印されて、一人の方が1日、2日凌げるだけの食糧備蓄を、セットみたいなものを無料配布するようなことで知事が調印式をされたというようなお話もニュースで出ていましたが、そういったこととか、防災の関係のことでも実際のところ、何とか助ける施設を作ってくれと言ったところで正直言って厳しい部分もありますよね。ある程度に、逃げる、逃げるという部分に関しては自分らで身を守らないといけないこともあると思うんですが、じゃあ、逃げた先で何にもなかったというのでは、それこそ、実際そういった時に逃げるというのはお年寄りの方とかそういった方、一番弱いわけですからそういった方を守れるだけのものがきちんとされているのかなと最近疑問に思ったものでもあったので、この際ですのでちょっと聞かせていただけたらと思うんですが。</p>

盆野政策財務
部長

正にそこでございまして、この24年、25年を防災の災害対応力の強化集中
年間で今から5年、10年かけていくことをやれるべきことを全部2年間でやっ
て、やれることは全部やろうと。その中でもやはり避難所、一時避難所の見直し、
これを徹底的にやりましょうということで去年の末でしたか、日本で多分初めて
だと思いますが、津波避難のマニュアルもきちんと私ども定めた中で、色んな避
難所の備蓄をもう一度徹底見直ししております。それで正直なように、例えば栗
真に避難所があったと。栗真の人が500名だから500名分のっていうふうな
数字で測れるものか。当然そこへお勤めの方もいらっしゃいますし、どこどこ行
っている方もいらっしゃいます。それと、あと色んな風水害の避難所とか自身の
避難所があったとして、もし例えば津波とか水が、川が溢れて使えなくなって時
に次の、そこから上にあがるというか、最寄りの避難所へ行く。こういう想定の中
で、一つは各避難所の備蓄のきちんとした数とステーションのように、例えば
だめになって時にどこかからできるように、こういうものを今徹底的に見直そう
ということで、今防災は沿岸部の自治会に皆入りまして、色んな、例えば避難経
路の確認からそういうあり方をしようかと自主防災会を時間かけてやっているん
です。私が申し上げているのは、この1、2年の徹底見直しの中で、避難所、一
時避難所には考えるもの全部やりたいと。それから、災害用の備蓄の強化、充実
は必ずやりますと。もう一つは、いつどこでどうしようという、避難判断マニ
ュアルですね。これはやはりどうやって逃げていいの、何していいのというのが分
からない、どうしていいか分からないというのをやはり自助、共助の中で、自分
でまず逃げるという気持ちを持ってもらわないと次にいけないと。よく津波避難
ビルがあるから安心だと言っていますが、違いまして、より早くより高く逃げて
いただくと。けれども、お年寄りの方とか足の悪い方がいらっしゃって、最後の
手段で逃げ遅れた方がそこを利用して安全確保していただくんです。こう口を酸
っぱくして言っているんです。そういう中で、こんな計画作りましたって渡して
というよりも、やはり地域の自主防災会に私どもの職員も入って色んな形でご意
見聞きながら、気持ちとしてはその地域の方の盛り上がりの中で、あとこれが
足りないじゃないか、あれが足りないじゃないかと。幸いにも、例えばPTAさ
んが災害用備蓄、もし子どもたちが小学校に閉じ込められたらという中で、そう
いうのも私ども追加でこういうのもしたいな、やりたいなという辺りもあります。
何て言いますか、例えば電気一つについてでも発電機であったり投光機であった
り、それからトイレ。簡易のがあったり、こういったものを絶対充実しないとい

<p>南野副会長</p>	<p>けないということで、幸い県の補助で半分くらい補助していただける制度とか、本当に1、2年の限定できましたので、これは全部食い尽くします。食い尽くすって言葉が悪いですが。あと、国の防災減災事業と言いまして100万円の仕事をすれば70万円国から補助というか、返してあげるよという制度なんです、こういったものは一番に手を挙げて、何もかもいただいて、それが例えば今100万円市でやるのが、100万円のできるけれど、それ30万円で済むなら3倍できるというような形で、もう目一杯その制度は使って、この2年で強化してやるということは市長も言っておりますし、現実にもそういうような予算を組ませていただいていると思います。</p> <p>はい、よろしいでしょうか。</p> <p>議論は尽きないんですが、そろそろ時間がまいりましたので、まとめさせていただきます。</p> <p>本日、多岐にわたるたくさんのご意見等をいただきまして、誠にありがとうございました。いただきましたご意見、ご提言につきましては、総合計画後期基本計画に反映させるべく、地域の在り方や目指すべき方向などについて、地域や委員の思いを込めた意見・提言書を作成しまして、9月末頃までに津市総合計画審議会に提出する予定でございます。</p> <p>また、この意見・提言書をもとにいたしまして、当審議会を代表しまして私が総合計画審議会の場で意見を述べてさせていただくこととなりますし、総合計画審議会は、この意見・提言を踏まえ、審議を行い、津市総合計画後期基本計画について市長に対し答申を行う予定になっております。</p> <p>そこで、この意見・提言書の作成及び提出につきまして、皆様にお諮りしたいことがございます。委員の皆様からいただきましたご意見・ご提言を検討委員会で取りまとめをさせていただきまして、津地区地域審議会としての意見・提言書を作成したいと存じます。5名の検討委員、会長、私、それから杉本さん、内田さん、柏木さん、この5名の検討委員に意見・提言書の作成及び提出につきまして、ご一任いただけませんかでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>【拍手により承認】</p>
--------------	--

<p>北川地域政策 課長</p>	<p>ありがとうございます。ご承認いただきましたので作成いたしました意見・提言書につきましては、提出前に各委員の皆様にお送りさせていただきたいと思えます。</p> <p>本日は、議事進行にご協力を承りまして、誠にありがとうございました。事務局の方から何かございましたでしょうか。</p> <p>次回以降の審議会の開催についてでございますが、先程も副会長の方からありましたように9月末に一度、意見・提言書を総合計画審議会に出してまいります。それを受けて、総計審の方で素案という形で色々まとめていただくことになると思いますが、その辺りで、津地区の地域審議会からお出しいただいた意見、提言をどういう形で反映させたかという結果も踏まえまして、ご報告も含めて、10月中盤以降になろうかと思いますが、その辺りで一応審議会を開催させていただきたいなというふうに考えております。</p> <p>ただ、詳細な日程、事項等が決まりました時点で、再度ご連絡させていただきたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。</p>
<p>南野副会長</p>	<p>よろしいですか。</p> <p>どうも、お疲れ様でございました。</p>